防炎ニュース

Fire Retardant News

NO.
236
2024.4

巻頭言
防炎品の普及拡大を望む

予防行政の取り組み紹介
衣浦東部広域連合消防局の予防行政について

公益財団法人 日本防炎協会
JAPAN FIRE RETARDANT ASSOCIATION

防炎ってなに?
知りたい

防炎講座
受付中

無償で講師を派遣します。
社員研修・職員の勉強会に
講習会・講演会にいかがでしょうか?
オンラインでの講座もご相談下さい。

問合せ先
公益財団法人　日本防炎協会
Email：　ishiwatari-h@jfra.or.jp
電話：03-3246-1661・0624
担当：石渡・五十嵐

目　次

02 〈巻頭言〉
防炎品の普及拡大を望む
一般財団法人　日本防火・危機管理促進協会　理事長　山口　英樹

04 **予防行政の取り組み紹介**
衣浦東部広域連合消防局の予防行政について
衣浦東部広域連合消防局　予防課長　柴田 正幸

08 **防炎 北から南から**
西尾市消防本部（愛知県）

09 **令和６年能登半島地震と地震火災を考える**
常葉大学名誉教授　重川　希志依

13 **連載　第５回　天よ 地よ 水よ 私たちは負けない**
道路環境プランナー　芥川 麻実子

17 **日本防炎協会の研修に参加して**
大妻女子大学　共立女子大学　実践女子大学

協会からのお知らせ
27 １　防炎講座随時募集　令和５年度実施結果及び令和6年度開講予定
29 ２　令和６年度防炎加工専門技術者講習会等の開催について
32 ３　令和６年度事業計画書・収支予算書
35 ４　防炎製品「パーティション一体型布張家具」及び「工事用防音パネル」の認定開始について
39 ５　令和６年度住宅防火対策推進協議会主催のシンポジウム等のご案内
40 ６　防炎ラベル交付枚数の推移

41 **2024年度 全国統一防火標語について**

42 **協会ニュース**

巻頭言

防炎品の普及拡大を望む

一般財団法人　日本防火・危機管理促進協会　理事長
山口　英樹

私たちの協会は、防火体制の向上と国民の防火思想の高揚を目的として昭和45年に設立された財団法人が前身となり、その後、地方公共団体の危機管理体制の充実発展に寄与することを目的に加えるなどして現在に至っています。

防火の面では、秋と春の全国火災予防運動にあわせて防火ポスターを作成し、全国の消防本部等に配布しているほか、住宅防火対策推進協議会の事務局を務めさせていただいています。住宅防火対策推進協議会は、住宅火災による悲惨な死亡事故を少なくするため、消防、住宅、ガス、たばこ、燃焼機器などの関係団体や行政機関、学識経験者等により設立され、住宅防火に関連する各種事業を実施しています。

令和5年度は、東京ビッグサイトで開催された国際福祉機器展への出展（9月）や「住宅防火防災推進シンポジウム」の開催（宮城県仙南地域、新潟県糸魚川市、三重県志摩市）、各地の消防本部で実施される防火や防災に関するイベントにダニエル・カールさんを派遣してCATV（ケーブルテレビ）向けの住宅防火広報番組を作成し放送する事業（長崎県佐世保市、広島県三原市、大阪府

守口市・門真市、栃木県鹿沼市）などを行っています。いずれの事業において、日本防炎協会からも参加いただき、防炎品の普及啓発を行っていただいています。

令和5年版消防白書によれば、令和4年中の住宅火災による死者数（放火自殺者等を除く。）は972人（対前年比6人増）、そのうち65歳以上の高齢者の死者数は731人（対前年比15人増）で、全体の75.2％を占めています。住宅火災による死者数は平成17年の1,220人を最悪に、その後、住宅用火災警報器の普及などもあり、減少傾向にありましたが、ここ数年は横ばい傾向にあります。高齢者に限ってみると、高齢化の進行もあり増加する傾向が伺われます。また、死者の発生状況を死に至った経過別にみると、逃げ遅れが426人（43.8％）と最も多くなっており、着衣着火も41人（4.2％）となっています。

火災を出さないことが一番大切ですが、今後、ますます長寿社会となり、高齢化が進んでいくことが予想される中、火災による死者を一人でも少なくするために、防炎品の普及・拡大が特に望まれるところです。

第50回国際福祉機器展への出展

ケーブルテレビ向け広報番組の作成

予防行政の取り組み紹介

衣浦東部広域連合消防局の予防行政について

衣浦東部広域連合消防局　予防課長
柴田 正幸

1　はじめに

当消防局は、平成15年4月1日、碧南市、刈谷市、安城市、知立市及び高浜市の5市における消防行政を所管する広域連合として発足しました。

管内は愛知県のほぼ中央、平坦な西三河平野に位置し、衣浦港を有する三河湾に面しています。構成する各市の特徴として、碧南市は窯業・鋳物・醸造等の伝統産業に加え、衣浦港が重要港湾の指定を受けて以来、臨海工業地域として目覚ましい発展を遂げています。刈谷市は、トヨタグループの源流とされる株式会社豊田自動織機等、自動車関連企業の本社や工場が多数稼動し

広域連合の位置図

碧南市（衣浦臨海工業地域、碧南市提供）

刈谷市（刈谷駅玄関口みなくる広場、刈谷市提供）

安城市（安城産業文化公園デンパーク、安城市提供）

知立市（歌川広重画　東海道五十三次之内池鯉鮒（行書版東海道）、知立市歴史民俗資料館所蔵）

高浜市（大鬼面、高浜市提供）

ており、国内屈指の自動車工業都市です。安城市は自動車関連工業に加え、稲作産業を始めとして園芸、畜産等の農業も盛んであり、農業先進国と言われたデンマークになぞらえて「日本デンマーク」と呼ばれています。知立市は古くから知立神社の門前町として栄え、江戸時代には東海道五十三次の39番目の宿場町「池鯉鮒宿（ちりゅうじゅく）」として整備される等の歴史に裏打ちされた風情に加え、「三河仏壇」等の名産品をはじめとしたものづくりも盛んなまちです。高浜市は産出する良質な三河粘土を原料とした「三州瓦」生産の中心地であり、鬼瓦の生産においても有名で、全国で唯一、瓦をテーマにしたユニークな美術館が整備されています。

2　衣浦東部広域連合消防局の体制

当消防局の管轄面積は202.54㎢、管轄人口は534,816人であり、これに対し、1本部（消防課、予防課、通信指令課）、5消防署、6分署、1出張所、職員443名（再任用職員20名含む。）の消防体制で、管内市民の安心と安全を守っています。

3　予防業務の体制

予防業務体制は、本部（消防局）の予防課と各消防署の予防係で業務分担しています。本部予防課は当消防局における火災予防施策の企画・立案を手がける他、予防係は火災予防広報、違反処理の事務等を行い、危険物係は管内全ての危険物施設の設置許可、煙火消費許可、液化石油ガス設備の設置届出に係る事務等を行っています。各消防署の予防係は所轄する防火対象物の建築確認同意事務をはじめ、消防用設備等の設置指導、防火査察、所轄する危険物施設の変更許可等の事務の他、関係諸団体に係る事務等、地域に根差した事務を多岐にわたり行っています。

4　予防業務の取り組み状況

(1)　高度査察員制度

従来の消極的な違反是正の対応から、与えられた権限を適正に行使し、積極的に違反是正に取り組む組織体制への転換を図るためには、業務に携わる職員一人ひとりの自覚とモチベーションを高めることが最重要課題と考え、平成30年度に実施した査察規程の全部改正に併せて「高度査察員制度」を創設しました。

高度査察員制度は、消防力の整備指針第32条第3項で定める予防技術資格者のうち、査察業務に係る高度な研修を受講した者を「高度査察員」として認定するもので、認定された高度査察員は、その知識と技術を活用して査察業務及び違反処理業務を推進

するとともに、他の職員の教育の主導的な立場を担います。また、高度査察員には「高度査察員章」が貸与され、執務中に着用することで、査察業務のエキスパートであることを対外的にアピールするとともに、職員自身の自覚を促します。

令和6年3月1日現在、148名の職員が高度査察員に認定され、組織全体の意識改革・レベルアップに寄与しています。

高度査察員章

⑵　夜間特別査察

年末の忘年会シーズンに合わせて、駅前周辺の繁華街に対し無通告による夜間立入検査を毎年実施し、主に通路や階段等の避難経路の維持管理状況をチェックします。放置された物件等により、避難等に支障が生じている状況も多々確認され、関係者にはその都度改善を指導することで安全を確保しますが、火災予防上の危険性が高いと判断した場合は、消防法第5条の3第1項に基づく物件の除去命令を発する場合もあります。

違反自体はなかなか無くならず、繰り返し違反も多いのが現状ですが、関係者に対し、火災時の危険性等を粘り強く説明するとともに、毅然とした態度で臨むことで、利用者の安全確保に努めています。

夜間特別査察

⑶　防火教室

小学3年生が、社会科授業で消防について学習するのに併せて開催し、児童に火災の怖さを再確認してもらうとともに、火災時に自分の身は自分で守るための避難方法や初期消火の方法など危機管理能力を養うことを目的として実施しています。消防職員が小学校に直接出向き、炎上するてんぷら油を実際に見せ、住宅用火災警報器の必要性を伝えたり、隔壁板を実際に破壊させたりすることにより、高い啓発効果を得ています。

今後は、児童の消防庁舎見学時の機会をとらえた防火啓発実演講習等、新たな試みを模索し、幼少期からの火災予防思想の啓発に取り組んでいきたいと考えています。

小学校での防火教室

⑷　消防局音楽隊

当消防局の発足と共に衣浦東部広域連合消防局音楽隊も発足しました。現在、隊長以下37名が在籍しており、通常勤務を行いながら、非番日に音楽隊の練習を行い、日々演奏技術の向上に努めています。

音楽隊の活動は、管内で開催される大きなイベントや消防団の式典で、防火啓発を交えながら演奏が実施されます。また、幼稚園等でも演奏会を行い、園児と音楽を通しての触れ合いに努めるとともに、参観する保護者に対しても啓発活動を行い消防の認知度アップに貢献しています。

このような活動による市民との身近な触れ合いは、消防職員としてのモチベーションアップにつながっている反面、非番日での練習やイベントの参加は、職員の負担にもなっていることから、活動を維持しつつ職員の負担を軽減することが、今後の課題であるといえます。

こども園での消防局音楽隊演奏会

5　おわりに

当消防局は、令和5年4月1日に創立20周年を迎え、これを機に、公式キャラクター「キヌビィー」が誕生しました。キヌビィーは“蜂の特性を活かし火災や病気で困っている人がいたら、いち早く駆け付けて仲間の消防士達と協力して助けてくれるみんなのヒーロー”です。予防分野における市民のニーズはますます高まる一方で、その対応は、一つひとつ丁寧かつ柔軟さが求められる時代となっています。我々も、キヌビィーのような頼りになるヒーローでいられるよう、常に研鑽を怠らず、職員一丸となり、最善を尽くしてまいりたいと考えます。

キヌビィー

防災 北から南から

SDGsで火災予防広報！！

西尾市消防本部（愛知県）

1　目　的

着衣着火による負傷者は加齢に伴い身体機能の衰えてくる65歳以上の高齢者が約8割となっており、全国で毎年100人程度の方が命を落とされています。

今回、春の全国火災予防運動週間前となる令和6年2月16日（金）に、佐久島地区の一人暮らしの高齢者及び高齢者夫婦世帯に対して火災予防啓発を実施しました。

2　実施内容（特に工夫した点）

(1)　女性消防クラブ員が初めて作製した難燃性アームカバー（SDGsの趣旨に基づき、貸与期間が過ぎた消防職員の活動服の袖を再利用）を1世帯ごとに1双ずつ配付し、防炎協会から提供された広報誌も活用して着衣着火対策を指導しました。

(2)　令和4年度に一般財団法人全国消防機器協会からの寄贈・設置した住宅用火災警報器の作動確認方法を指導しました。

3　実施地区及び配付世帯

佐久島西地区（21世帯）・佐久島東地区（29世帯）を対象

4　配付等実施者

西尾市女性消防クラブ・民生委員・佐久島振興課・消防（佐久島分遣所、予防課）計11名

5　実施した結果及び効果

医療機関から遠隔となる離島居住者の高齢者に対する着衣着火の注意喚起は、死傷者防止に寄与すると思慮されます。

また、住宅用火災警報器の作動確認及び指導は、島民の方に安全安心を提供することができました。

令和６年能登半島地震と地震火災を考える

常葉大学名誉教授　重川　希志依

１．2024年１月１日

新たな年を迎えた本年１月１日16時10分、令和６年能登半島地震が発生した。元日の夕刻、多くの家庭では家族団らんで新しい年を祝い、のんびりと過ごされていたことと思う。我が家もまさにそのような状況であり、そろそろ夕飯の支度を始めようと台所に立って用意しかけていると、建物の鉄骨がギーギーとかすかな音を立て始めた。自宅は鉄骨造の高層集合住宅のため、強風が吹くと鉄骨が音を出す。今日はそんなに風が強く吹いていないのにおかしいなと思っていたら、床が揺れ始め、室内の観葉植物の葉がゆらゆらと動きだした。強風ではなく地震だと気づくと同時に、点けていたテレビから地震発生の情報が流れ始めた。また地震発生からわずか２分後の16時12分に、気象庁から能登半島地域などに津波警報を、さらに16時22分には石川県能登に大津波警報を発表した。

さらに日没後の真っ暗な輪島市内で、大規模な火災が発生している映像が映し出された。日が暮れているために、建物の被害や津波の状況は全く不明のまま、市街地大火の真っ赤な炎だけが、被災状況の深刻さを知る唯一の情報であった。夜明けとともに、被害の状況が少しずつ伝えられるようになってきたが、それでもなおこの地震の17年前に発生した2007年能登半島地震の被害をはるかに上回る激甚な被害が発生していることをまだ知ることはできなかった。

２．地震火災との闘い

昨年の９月１日、関東大震災発生から100年目を迎えた。全国で様々な催しが開催され、マスメディアでは多くの特集番組が放送された。とりわけ強調されていたのは、東京府で生じた死者約10万人のうち、その９割が命を奪われることとなった地震火災に関することである。

大正12年（1923）９月１日午前11時58分に起こった関東大震災は、西欧諸国の都市を手本として、日本が近代都市を目指したまちづくりを進めていた途上で発生した。江戸時代には数年に一度の大火に見舞われ、再建しては焼け落ち、再建してはまた灰燼に帰すという経験を繰り返してきた。明治維新以降、東京のまちを火災に強い不燃都市に改造する

ことは政府の大きな目標となり、明治10年には日本で最初の西洋風の不燃建造物として、銀座煉瓦街が完成している。しかし残念ながらこの煉瓦街も、関東大震災により壊滅的な被害を受けた。地震後の市街地大火さえ起きていなければ、震災による犠牲者数は東日本大震災より少なかった可能性がある。関東大震災から８年後の昭和５年に帝都復興祭が行われたが、それからわずか15年後の昭和20年に東京は再び、空襲により焼け落ちてしまった。東京をはじめ木造建物が密集する日本の都市部では、市街地大火からいのちと暮らしを守ることが、長年にわたって主要な地震対策の柱として位置づけられてきた。

関東大震災以降、わが国では多数の地震が発生しているが、1995年に阪神・淡路大震災が起こるまで、東京をはじめ木造密集市街地を抱える都市においては、地震火災による被害軽減が地震防災の重要課題であった。例えば東京都では、関東大震災時の被服廠跡の大惨事などの経験から、地震火災から人命を守るための広域避難地・避難路の設定や、避難地・避難路の安全性確保のための都市防災不燃化促進事業などの不燃化対策に積極的に取り組んできた。この方向性を大きく変えたのが阪神・淡路大震災であり、これまで殆ど顧みられることのなかった住宅の耐震性向上が重要な施策として位置づけられた。この阪神・淡路大震災から16年後に、誰も想定できなかった巨大震源域により東日本大震災が発生した。この震災を契機に、津波からいのちをまもる避難対策や安全な土地利用、津波被害抑止施設整備などが地震対策の重要課題として位置づけられ、全国的な取り組みが進められてきた。そして現在、南海トラフ全体を一つの領域とした地震に対する対策を講じていくことが、政府の重要な施策となっている。

写真：地震動による建物被害と津波被害を受けた珠洲市鵜飼町（2024年２月16日撮影）

３．地震火災に対する被害想定

このようにわが国では、これまでに発生した地震災害の被害特性に応じ、重要な施策として取り組まれてきた地震防災対策は移り変わってきた。いずれの震災も極めて重要な教訓を我々に示唆しているが、昨年東京都では10年ぶりに「首都直下地震等による東京の被

害想定」を見直した。被害が最大となる都心南部直下地震が起きると、死者は約6,150人、建物被害は194,400棟と、いずれも前回の想定より約３～４割減少している。この10年間で、建物の耐震化や都市の不燃化が進んだことが被害減少の要因となっているが、死者の４割、建物被害の６割は火災によるものである。

さらにこのケースの場合、区部では全出火件数915件のうち、居住者や隣人等による初期消火成功率が31％、多摩地区では全出火件数158件のうち同様に初期消火成功率が43％期待されたうえでの被害想定結果となっている。この初期消火率の算定方法を具体的に見てみると、実は確たる科学的根拠に基づいたものではないことが分かる。すなわち、被害想定の前提条件とされている地域住民らによる初期消火活動が想定通りに実施されない可能性も十分にあり、もしそのような事態になれば火災被害は想定結果を大きく上回ってしまうことになる。

４．地震火災対応の難しさ

本年発生した能登半島地震による大規模火災が起きる約７年前の 2016年12月22日、新潟県糸魚川市で大火が発生した。人口約４万人の地方都市で発生したこの火災は、最大瞬間風速27.2ｍという強風も災いし、出火から約30時間延焼を続けた。この大火による焼損棟数は147棟、焼失面積は約４haである（表１）。首都直下地震により延焼火災が懸念されている地域と比較すると、きわめて狭い範囲であったことが分かる。しかしこの延焼範囲であっても、消火活動にあたった消防機関では極めて大きな混乱が起こり、火災の動態を予測した戦略的な消火活動や統制のとれた指揮命令を下すことはできなかったという課題に直面した。

また大規模な林野火災と比較すると、消火活動現場に多数の住民がいることが大きな相違点となった。地域住民に対する避難指示や避難所の用意、避難行動要支援者のバス移送、我が家を守ってほしいという個別の要望への対応など、林野火災では経験したことのない事態に遭遇し、消火活動に専念することも困難であった。

糸魚川大火の焼失面積はおよそ４ha、また輪島市の朝市通り周辺で発生した地震火災の焼失面積は、糸魚川大火を少し上回る約５haである（表１）。都市の不燃化が進み、さ

表１　糸魚川大火と輪島朝市通り周辺火災の概要

	糸魚川大火※1	能登半島地震大火※2
発生日時	2016年12月22日	2024年1月1日
出火時間	午前10時20分頃	調査中
覚知時間	同10時28分	17時23分頃
鎮圧	11時間後	1月2日7時30分
鎮火	30時間後	1月6日17時10分
焼損棟数	147棟	約240棟
焼損面積	約40,000㎡	約49,000㎡

※１大火の記録展示 - 糸魚川市、※２消防研究センター

写真：焼失前の永井豪記念館
（2022年４月撮影）

写真：輪島市朝市通り周辺の地震火災により焼失した永井豪記念館
（2024年２月15日撮影）

らに常備消防力が強くなった現在では、江戸時代に多発した大火や関東大震災時の地震火災のように大規模な火災発生の可能性は低いという指摘もある。しかし、かねてより東京大学の加藤孝明教授が指摘している延焼運命共同体（出火すると延焼する恐れの高い一群の建物群）は、日本のいたるところに存在しており、東京では3,000棟以上の共同体は71カ所存在している。

とりわけ地震に伴う大火の場合には，能登半島地震の被災地で経験したとおり、通常の大火と比べ極めて不利な条件が重なる。既に報じられているとおり能登半島地震では、震度７の強震による多数の建物破壊や山・がけ崩れ、津波被害、地震火災、液状化被害、道路に生じた亀裂や段差・倒壊構造物による道路交通支障など、過去に私たちが経験した地震被害のすべてが起こってしまった。地震による断水で消防水利が確保できない、道路陥没や土砂災害・倒壊家屋のがれきに阻まれ消防車両等の通行が大きく阻まれるなど、地震時特有の消防活動阻害要因が多数ある。

さらに地震発生直後に出された大津波警報により、被災地域の方たちは避難せざるを得ず、生き埋め者の救出や火災に対する初期消火活動を行うことは難しかった。この点は、地震発生直後に地域コミュニティの共助により、生き埋め者の救出や初期消火活動に大きな防災力が発揮された阪神・淡路大震災と大きく異なる。消防職・団員も自らの命を守るために、津波避難行動をとることは当然のことである。

糸魚川大火での消防活動の困難さ、さらに能登半島地震被災地で経験したように地震被害が加わった場合の更なる消防対応の難しさを、現実感をもって真摯に受け止め、改めて出火防止と初期消火対応の重要性を訴えていきたい。

連載 第5回

天よ 地よ 水よ
私たちは負けない

巨大な消防車

道路環境プランナー
芥川 麻実子

小学生の頃からアメリカに憧れていた。当時はテレビでのアメリカ製ホームドラマの全盛期。明るいうちにお父さんが家に帰り、お母さんの夕餉の支度のお手伝い、食卓では子供たちの悩みに真摯に向き合い、皿洗いもお父さんの役目だった。高校女子は、大きなクルマを運転して学校に通う。見たこともない日常生活が描かれていたのだから、憧れないはずはない。

一刻も早くアメリカに留学したいという気持ちはつのるばかりだったが、叶わなかった。社会人になって少しずつ貯めた円をドルに替え、スーツケースの底に薄ぺったく敷きつめて、ロサンゼルス往きのチャイナエアラインのエコノミークラスのシートに身を沈めたのは、30歳を過ぎてからのことだった。

ことばと文化

「かたくて、デッカイ肉をもりもり食べてるアメリカ人に、日本人のような細やかな心があるものか」

当時の風潮だった。しかし疑問は膨れるばかり。それなら、なぜ心温まる小説やコラム、夢の世界へいざなってくれる映画やドラマが生まれるのか。その疑問を紐解いていきたいという一念だった。まずは英語の勉強だ。

州立大学付属の英語学校は、「アメリカ文化と英語を学ぶプログラム」と題されていた。文法や例文を習うこともあったが、それよりも自分をいかに英語で表現するか、少ない語彙でも表現できるというところに重きがおかれていた。また、アメリカンポップスを歌ったり、ニュースを聞くというカリキュラムも同時に組まれ、遠足はドジャーススタジアムでの野球観戦や、クジラ見物。学習というより楽習の毎日だった。アメリカ文化の疑問への答えは少しずつ見えてきた。

山側では

始まりは、現地在住の友人に紹介された家賃が安い山側に位置するアパートからだった。現在のような激しい気候変動が無い頃だったが、ひと山西側にある砂漠から時折熱波が襲ってくる。「サンタアナ・ヒートウェーブ」と呼ばれていたが、その暑さは尋常ではなく、壁や窓にも熱がこもって、陽が落ちても一向に涼しくならない。部屋の真ん中で、タオルにくるまって眠る夜が数日続いた。

当然のように、山火事がしばしば発生する。すぐに消し止められるほどの山火事だったが、行き場を失った肉食のコヨーテが住宅地を徘徊し、ペットたちがその犠牲になる事も度々報じられた。海側に引っ越そう。

ウソデショ！

海へ向かう小道に面した場所にあるこぢんまりしたアパートの2階に、小旗がひらめいていた。空室を示す小旗である。想像していたより、家賃もリーズナブル。バルコニーからはトーレンスビーチと呼ばれる湾が見渡せた。一目ぼれとはこの事。

珍しく雷雨にみまわれた夜、同じアパートに住む人たちが、ビールやワインを手にして次々と私の部屋のドアを叩いた。「ここからが、一番良く空が見えるの」

驚きだ。稲光が光る度に、歓声を上げ盛大な拍手をおくる。嵐がおさまると、口々に「こんなスケールの稲妻を見たのは初めて、ありがとう」と、皆興奮冷めやらぬ表情で去って行った。雷さえもエンターテイメントにしてしまうなんて。

貧乏学生だったから、乗っていたクルマもおんぼろに決まっている。ある朝出かけようとクルマの前へ立った瞬間、異変に気付いた。ポタポタと液体が落ちている。ガソリンだ。ほうきがマッチ棒のように見えるほどの大柄な大家さんは、いつも通り中庭を掃いていた。事の次第を話すと、「それは大変、こういう場合は消防署へ連絡よ」

ほどなくサイレンの音とともに、消防車が現れた。「ウソデショ！」それは、超高層ビルを消火するのではと思えるほどの、大きなはしご車。銀色の服を身に着けた消防隊員が続々と降りてきた。「こんな、おんぼろグルマのポタポタにはあまりにも大げさ。叱られる、きっと叱られる」

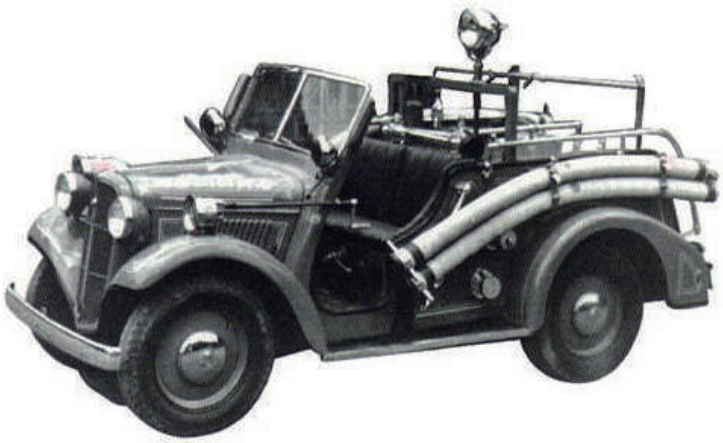
隊長とおぼしき人は粘土のような物を持って、クルマの下にもぐりこんだ。ものの1分もたたないうちに起き上がったその人顔は満面の笑み。「ウソデショ！」

芝生に寝転がり書類を書く隊長は、「日本人の女性は謙虚で優しいといわれているけど、あなたに会ってそれが本当だと思ったよ」と、冗談まで飛び出した。いつの間にか消防車の前に整列した銀色の人たちも満面の笑み。巨大な消防車はカーンカーンと鐘の音を響かせ去っていった。

これがアメリカだ。

わだかまっていた疑問は、南カリフォルニアの真っ青な空に向かって一気に突き抜けた。

日本の消防自動車（日本機械工業株式会社にて）



戦後間もない頃の消防ポンプ自動車。躯体は米軍から払い下げられたトラック

トラック工場から運ばれたシャシから、消防自動車へと組み立てられていく

地域に必要とされる消防自動車の仕様が異なるため、消防自動車は全てオーダーメイド

全長10ｍを超える空港用化学消防自動車

日本防炎協会の研修に参加して

参加大学校
大妻女子大学　共立女子大学　実践女子大学

令和6年2月26日（月）から28日（水）までの3日間、大妻女子大学3名、共立女子大学3名、実践女子大学2名、計8名の家政学部及び生活科学部学生が「衣料管理士実習」として3校合同での研修を実施しました。研修内容は、防炎協会の役割、防炎物品と防炎製品の違い、防炎品の品質管理、燃焼試験の実習など協会全体の業務内容についてです。

研修終了後、学生の皆さんに、ご意見・ご感想をいただきました。

実習日ごとのスケジュールは次のとおりです。

日　時	実　習　内　容
2月26日（月）	午前　オリエンテーション（実習内容説明） ・様々な危機と火災対策 ・防炎技術と防炎性能試験について 午後　・防炎協会の役割 ・防炎品の品質管理 ・防炎物品・防炎製品とは
2月27日（火）	終日（実習）　防炎性能試験実習
2月28日（水）	終日（実習）　防炎性能試験実習

参加学生のみなさん

大妻女子大学　家政学部　被服学科　岡部（おかべ）　美悠（みゆ）

日本防災協会の皆様、3日間という短い間ではありましたが、ご多忙の中貴重な体験をさせていただき、有難う御座いました。大学では扱ったことのない機器や、専門性のある作業、とても興味深かったです。そのような経験の中で、私は繊細で緻密な作業に驚きました。防炎協会配属が決まった際には、実際にどのようなことを行う場であるのか、繊維とどのような関係があるのか、不明な点がたくさんありました。しかし、繊維との関係性が非常に深い上に、このような職業や工程から、火を伴う事故を少しでも防ぐことができるのか、と思いました。今回は機器の中で、様々な試験を行っていたため、小さい規模でありましたが、実際の事故現場を想像して試験をみると、炎が広がらず止まると安心し、広がる繊維であった時には恐怖を感じました。

本実習を通して、防炎の技術によって、火災の抑制ができることがわかったため、「防炎」という取り組みがどれだけ大切であるか、また私たちの生活の中で知らぬ間にそれほど必要不可欠なものになっていたか、ということをまだまだ火災を防ぐ機会のある、この学生であるタイミングで知ることができたことは、将来への使命を感じます。一人暮らしをする時、旅行に行く時、自分の家を買う時、今後さまざまなタイミングで「防炎」を意識したいと考えました。

そして、「防炎」で、火災による死者や負傷者は、全体をみて減少し続けているものの、未だ毎年のように悲しい事故が起こっています。本実習で、自分たちでも身の回りの安全を守るために、カーテンや絨毯など、防炎技術を施すことができることを学びました。しかし、デザイン性やコスト面において、理解が広まっていないことも知りました。そこは、自分自身も気にする項目でもあるので、今後さらなる発展を期待しております。だから、今は自分を守るために、大切な人を守るために、本実習で感じたこと、知ったことを日常生活の中で駆使できるように、頭に留めておきたいです。

最後に、日本防炎協会の皆様には、上記のようにたくさん考えさせられる体験をさせてくださり、感謝申し上げます。協会や皆様の益々のご発展、陰ながらお祈りしております。

大妻女子大学　家政学部　被服学科　新里（にいざと）　みなみ

公益財団法人日本防炎協会の皆様、お忙しい中私たちのために時間を割いていただきありがとうございました。3日間の実習で防炎物品・製品について学ぶことができました。

最初、「防炎」とはどのようなことで、どんな内容のことを行っているのかが曖昧だったのですが、スライドやビデオを使った説明を受け、行っている内容と実際どのような実験をしているのかが分かりました。

普段は知ることの出来ない内容を知ることや、実際に実験を体験することが出来て非常に勉強になりました。

実習の3日間の中では、火災が起こってしまった時に身の回りの物が防炎物品と防災製品であれば、小さなボヤ程度で納めることが出来、大事に至らないようにすることが出来る役割があることを学びました。

「防炎」とは燃えにくい事象のことであり、火災の成長を抑制し、自己消火性の効果があるため初期消火・早期避難に繋がるということも学びました。

住居内のカーテンや絨毯、その他の布製品に防炎性能があるかないかで火災が起きた際の進展に大きく影響するということが分かりました。

また、火災の多くは住宅火災であり、その死者は高齢者が多く75%を占めていることも学びました。その原因は逃げ遅れが多く、防炎品が初期消火や避難の時間を稼ぐことに繋がることで多くの命が助けられるため、非常に重要なものであると感じました。

部屋のカーテンや絨毯、布団などを選ぶ際、防炎品であるかどうかを気にせずに購入していたため、自分の命を守るために気にして生活空間を作ろうと思いました。

「防炎」というのは、日々の生活の中ではあまり主張がある性質では無いけれど、いざとなった時に非常に私たち消費者の命を守ることができる大事なものであることを実感することが出来ました。

実際に自分たちで実験をしてみて、1つ1つ手作業で行い、防炎性能評価基準に達しているかいないかを見極めるのは難しいと感じました。

普段は扱えない機械を扱って実験するのは興味深く、優しく教えてくださったので楽しく行うことが出来ました。特に絨毯等床敷物の燃焼試験、エアーミックスバーナー法では普段使用しているラグやたたみの試料で実験出来たため、分かりやすかったです。

たたみの実験や、寝具の未加工の試料を使用した実験では火を付けてからすぐに全体が燃えてしまったため、燃えにくい加工が施されている製品を使用することの大切さを感じることが出来ました。

大妻女子大学　家政学部　被服学科　櫻井（さくらい）　花々（はなか）

日本防炎協会の皆様、この度はお忙しい中、3日間にわたり衣料管理士実習に参加させていただきありがとうございました。

今まで生活をしてきた中で、『防炎』というと防炎ラベルを見かけるくらいで、特別意識をしたことはなく、詳しい知識はありませんでした。

しかし、この3日間を通して、身の回りの様々な危機や火災対策、防炎協会の役割、防炎製品・防炎物品、防炎性能試験などについて学びを深めることができました。今まで学んできた大学の授業では、体験することのできない経験が多くあり、新しい発見ばかりで大変勉強になりました。

防炎性能試験を実際に行ってみて、防炎加工のあるものとないものでは、炎のつき方や大きさ、燃え方が全く違い驚きました。普段使用しているカーテンや絨毯を、防炎加工をすることによって初期消化や避難のための貴重な時間を生み出していることを実感することができました。体験した試験は、試料布を一枚一枚切るところから手作業で行い、複数回の試験をして、厳しい評価基準で判断をし、時間をかけていることで火災抑制につながり、命を守るために必要不可欠な試験であると感じました。

また、建物火災全体の内の住宅火災による死者数の割合は91%という結果が出ており、その中でも、死亡に至った経緯については着衣着火が原因となった人数は1195人中101人ということを学び、衣料品の防炎化はまだまだ課題になる点であると思いました。流行りや値段に重きを置くことが多くあると思いますが、自分で簡単にできる防火対策になるので、高齢者の方は特に知ってもらいたいと思いました。

この3日間で身につけることができた知識を生かし、一級衣料管理士の資格取得に向けて頑張りたいと思います。

共立女子大学　家政学部　被服学科　鈴木（すずき）　菜々（なな）

今回の実習を通して、防炎協会の取り組みや、防炎加工をすることの大切さを学ぶことができました。

1日目の講義では、火災の危険を知ることができ、防炎品によってたくさんの人々の命を救っているのだと思いました。防炎品は、燃えないようにするだけでなく、もし、燃えてしまったとしても、逃げるための時間の余裕を持たせるものでもあると聞き、防炎品を用いることによって、生き残れる確率がとても高くなることを知ることができました。

また、防炎物品を用いらなければならない建物などの決まりがあることを知らず、高層ビルや不特定多数の人が出入りする場では、カーテンや絨毯などに配慮をしなければならないことを学べました。

2日目、3日目の実習では、防炎品の効果について実際に体験することができました。

様々な方法で、燃えやすさ、燃えにくさを観察し、調べられていることを知り、既製品として売られているものも安心して使用できると思いました。

また、防炎加工されているものと防炎加工されていないものの燃焼を比較すると、結果が全く異なり驚きました。防炎加工されていないものは、あっという間に燃え広がり、炎も大きくなり、火災となった場合は、その規模が大きくなってしまうのではないかと思いました。

しかし、防炎加工されているものは、ほとんどのものが、加工なしのものと比較して燃え広がらず、火が消えるものがほとんどでした。実験を実際に見て、防炎加工品を用いることで、多くの命が助かることを実感できました。

今回、実習を通して、防炎品による安全性を知り、防炎品を購入しようと思いました。

また、防炎品を使用することによって、火災の危険性を防ぐことができ、また、多くの命も救うことができるため、防炎品はどの建物にも必須にするべきでなのではないかと思いました。

三日間ありがとうございました。

共立女子大学　家政学部　被服学科　山本（やまもと）　夕佳（ゆうか）

私は、今回3日間の実習で1日目に講義、2、3日目に主に試料作成と試験の実習を通して防炎について学びました。

1日目の講義を受けるまでは、それまで見たことがある防炎ラベルのイメージから、防炎加工がされているものはホテルのカーテンとじゅうたんくらいだろうと思っていましたが、実際には日常で使用する寝具類、舞台のどん帳や工事用シートなどにも防炎品があり、生活のさまざまな場所で使用されていることを学びました。

また、防炎物品ラベルについても、物品の種類によって様式やラベルの素材が大きく異なることを知りました。講義を受けたことで防炎物品が身近に存在することに気が付くことができたため、これからは日々の生活の中で防炎物品を意識して探してみたいと思います。

講義内容で特に印象に残っているのは、過去の大規模火災被害の事例についてで、どうして防炎化することが必要なのか、どういった場所に防炎物品が必要なのかを、これらの被害の歴史を通して考えることができました。

2、3日目に行った防炎性能試験についても、事前のイメージでは試料をただ火に近づけて燃えるか燃えないか調べるものだと想像していましたが、この実習を通して、たばこ法やメセナミン法など直接火を当てない試験方法があったりバーナーを用いた試験にもさまざまな方法があったりすることを学びました。

また、一つの試験対象物につき洗濯・ドライクリーニングの有無や、試料の裏表、生地のたてよこ方向などたくさんの条件から試験を行っていると聞き、試験工程の複雑さを知ると同時に、対象試料に合わせて試験方法を複数選択したりその試験結果によってさらに追加で検査したりする必要があるなど、想像していたより徹底した厳しい試験が行われていることに驚きましたが、過去に起こってしまったような火災の被害を最小限に抑えるためには重要な工程であり、これらの試験が行われているおかげで人々の生活の安全は守られているのだと感じました。

日本防炎協会での3日間の実習に参加でき、とても貴重な経験ができたように思います。大学では、繊維の性質を調べるための燃焼実験などはあっても、「防炎」を直接学ぶことができる機会はなかったため、興味深く実習に臨むことができました。

共立女子大学　家政学部　被服学科　名取（なとり）　穂花（ほのか）

日本防炎協会の皆様、三日間を通して普段経験することのできない防炎の実習をさせていただきありがとうございました。

今回、日本防炎協会様の実習を選択した理由は、授業内では体験できない防炎性能について学ぶためでした。

座学では身の回りの危険の話から、これまでの火災の状況、防炎性能試験の話まで幅広く身を守ることについて学ぶことができました。

二日間の実際の防炎性能試験では防炎加工をされたものとしていないものの燃え方を比較して見ることがありました。防炎加工をしていないものは一瞬で炎を上げて燃えてしまい、とても火の恐ろしさを感じました。

一方、防炎加工をしたものに関しては炎の大きさが小さく、炎の燃え上がりを防いでくれていることがはっきりと見られました。防炎加工は燃えなくするのではなく、燃えにくくすることだというお話を聞きましたが、この加工の重要性や価値を実際の実験を通して感じることができました。

普段から自然災害のニュースや火災のニュースを目にしますが、防炎を意識して製品を選んだり、建物に防炎物品が使用されているのかを考えたりする機会は中々ありませんでした。

いかに防炎というものが私たちの命を守ってくれているのか実感しました。そして普段から意識して生活するきっかけにもなりました。実習を受けているかといないかでは、私たちの命を守る行動への意識が違ったと思います。

火災というものは防ぐことはできても、火災が起きてしまってから自分で火を消すことはとても難しいです。

火を消している間に命を落としてしまう可能性もあります。

防炎というものを知り、その効果について体感することができたので、これからの生活の中で自分の命、周りの人の命を守るために防炎を意識していきたいと思います。

実践女子大学　生活科学部　生活環境学科　酒井（さかい）　亜莉沙（ありさ）

日本防炎協会の皆様、3日間の貴重な実習に参加させて頂き、ありがとうございました。実習では、貴協会の役割をはじめ、大学の授業では学ぶことが出来ない防炎物品・製品の試験についての理解を深めることができました。

今回の実習に参加する前は、「防炎」とは燃えない物だと思っていましたが“燃えにくい”事象のことで、着火しても自己消火性があり燃え広がないため避難する時間を稼ぐ効果があるということが分かりました。

数年前、家のカーテンにヒーターの火が燃え移ったことがありましたが、幸い大きな火事には至らず、燃え移った火の拡大が抑えられていました。今回の実習を経て、使用していたカーテンは防炎性能を持っていたことに気づき、あらためて防炎物品の効果を実感しました。

このような防炎物品・防炎製品は身近なところにあり私たちの安心、安全を守るためにはなくてはならないもので、高齢者の火事による死亡事故が増加していることもあり防炎化のさらなる普及が必要だと感じました。

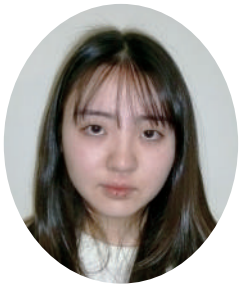
試験実習では、実際に使用されている器具を扱わせて頂き、生地や製品の防炎性を試験することができました。すべての製品や生地が同じ方法で試験していると思っていましたが、生地や製品の種類によって燃焼試験法が異なるということを知り、厳しい条件のもと試験しているということが分かりました。試験に合格した防炎品と不合格であったものでは燃え方や煙の出方が異なり、試験に合格した防炎品の重要性をより実感することが出来ました。

3日間の実習を通し、貴協会の役割である試験をすることの重要性や防炎品の機能性の高さを理解することが出来ました。身の回りにもたくさんの防炎品があることが知れたので、探してみようと思いました。

また、日常的にも防炎品を取り入れ周りの家族や友人にも防炎品や火災予防に意識を向けることの重要性を伝えたいと感じました。

改めてではございますが、日本防炎協会の皆様、この度は優しく丁寧にご指導して下さり誠にありがとうございました。

今回の実習で学んだことを活かして、今後も一級衣料管理士の資格取得のため精進していきたいです。



実践女子大学　生活科学部　生活環境学科　小宮（こみや）　怜奈（れいな）

日本防炎協会の皆様、お忙しい中3日間に渡り私たちを受け入れてくださりありがとうございました。様々な場面で私たちが実習を行えるよう、環境も整えていただき、心より感謝申し上げます。

今回の衣料管理実習を通して、防炎について初めて学ぶことが多くありました。実習に参加する前までは防炎について意識したことがなく、またそれに伴う物品や製品についての知識もありませんでした。しかし、防炎に関わる講義や試験を通して、防炎という言葉が持つ意味や防炎性能の必要性を学びました。講義では防炎協会、防炎品の役割や防炎製品についての内容が特に印象的でした。防炎協会の役割には、防炎物品、防炎製品の品質向上、適正な普及により、火災予防の推進に寄与し、安心・安全な社会の構築に貢献していることだと学び、私たちの日常生活における安心、安全が守られていると感じました。

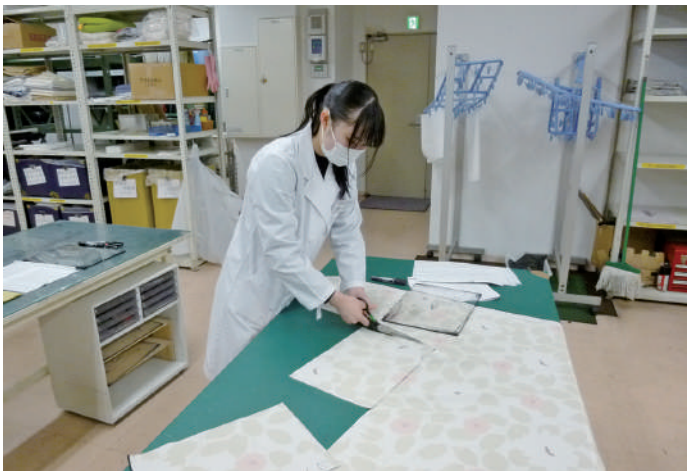
防炎品の役割には、火災から身を守る、火災の発生を防止、延焼拡大を抑制または阻止する効果、初期消火や避難における貴重な時間的余裕を持ち合わせており、様々な視点から重要だと学びました。初期消火や避難における時間の視点は想像がつかなかったです。また、防炎品には、消防法による規制がある防炎物品と防炎協会が認定した防炎製品に区別されていることも初めて知りました。防炎物品には人が多く集まる場所等で使用しなければいけないため、実際に私は学校等で防炎カーテンを目にしたことがあります。防炎製品には防炎協会が認定した寝具類、防災頭巾などがあげられます。私の身の回りには同様の製品が少なかったため、今後は意識して購入するなど、防炎品を使用したいと思っています。

次に防炎性能試験では様々な燃焼試験を行い、燃え方や試験に対する合否を実際に経験することができました。試験は重要で何度も繰り返し行われていること、合格の基準は厳しいことを知り、防炎性能を持った商品を使用することで私たちの安心、安全が守られていることを実感しました。

3日間の実習を通して防炎の重要性やその製品を使用することの意義を学ぶことができました。家族や周りの人たちへも防炎の重要性や防炎品の使用を進めたいです。

改めて、防炎協会の皆様のお時間を頂戴し、貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。

講義の様子



試験実習

試験実習

防炎講座随時募集
令和5年度実施結果及び令和6年度開講予定

総務部　広報室

1　防炎講座概要

私たちは燃えやすいカーテン、じゅうたん及び寝具類等の繊維製品に囲まれて生活しています。日常生活でのちょっとした不注意による失火が原因となって、多くの火災が発生しています。防炎性能（燃えにくい性質）を有する防炎品は、火災の初期段階では、火災の発生を防止し、延焼拡大を抑制または阻止する効果があり、また、防炎効果により火災の成長を抑制することで、初期消火や避難などの火災対応を行う貴重な時間的余裕をもたらします。

公益財団法人日本防炎協会では、「住宅防火対策のさらなる推進に関する具体的実践方策等について（平成19年3月20日付け消防庁予防課長通知）」を受けて、消防職員をはじめ、火災予防に取り組む地域の消防団、自主防災組織及び女性防火クラブ等を対象に、防炎品の必要性・有効性などの理解を深めていただくとともに、その効果を地域住民の方々にフィードバックしていただき、防炎品の普及促進のために、防炎講座を積極的に開催しています。

防炎講座のテキストとして消防職員向けの専門用教材「防炎の手引き」と消防団員、自主防災組織及び女性防火クラブ員等向けの一般用教材「図解　防炎講座テキスト」を作成し、受講者に適した教材を使用するとともに、講師として防炎に詳しい協会職員を協会の負担において派遣しています。

また、防炎講座では、防炎に関するプレゼンテーション用ソフトを使用した講義に加え、防炎に関する知識・技術等を収録したDVDの活用、防炎品と非防炎品の布を用いた燃焼比較実験の実施、奏功事例の紹介など受講者の方々に分かりやすい内容となるよう努めています。

防炎講座のコース及び研修内容等

コース別	教育･研修等の内容（例）	教育･研修の時間
専　門	①　防炎制度	1時間～1時間30分程度
	②　防炎技術	1時間程度
	③　防炎効果等	30分程度
	合　　計	2時間～3時間を超えない程度
一　般	身の回りの防炎化の推進全般	1時間～1時間30分程度 主催者と協議して決定

2　令和５年度防災講座の開講結果

コース別	実施主体･受講対象者	開催回数	受講人数
専　門	消防大学校	2	60
	消防学校	30	1,627
	消防本部職員	9	361
	その他（一般社団法人　県消防設備協会）	0	0
一　般	消防団員･自主防災組織･女性防火クラブ等	47	3,539
合　計		88	5,587

3　令和６年度防災講座の開講予定

本年3月末日現在の開講予定は以下のとおりです。

コース別	実施主体･受講対象者	開催回数	受講予定人数
専　門	消防大学校･消防学校･消防本部･その他	21	1,247
一　般	消防団員･自主防災組織･女性防火クラブ等	17	872
合　計		38	2,119

4　防災講座開講申込について

令和6年度の防災講座については、本年2月上旬にご案内しておりますが、協会では予算の範囲内でより多くの方々に防災講座を受講いただけるよう現在も応募を受け付けております。

今後、開講をご希望される消防学校、消防本部、女性防火クラブ等の団体におかれましては、協会担当までお気軽にご相談いただきますようご案内いたします。

また、ズームによる「オンライン講座」につきましても対応が可能ですので、お気軽にご相談下さい。

令和6年度
防炎加工専門技術者講習会等の開催について

管理部

（公財）日本防炎協会は、令和６年度の防炎加工専門技術者講習会及び防炎加工専門技術者再講習を次のとおり開催します。

1　防炎加工専門技術者講習会

区　　分		新　規　講　習　会
目　　的		防炎物品の製造又は防炎処理における品質管理に当たる防炎加工専門技術者養成のための講習を行います。
受　講　料		30,000 円＋ 3,000 円（消費税）＝ 33,000 円 天災等のため受講できない場合を除き、本人の都合で欠席する場合は前日迄にご連絡下さい。それ以外の場合は返金いたしませんので、予めご了承下さい。
東京会場 （40 名）＊注	実施月日	７月４日（木）･５日（金）（２日間） 両日とも午前９時 30 分～午後４時 40 分
	講習会場	東京都千代田区内神田１－18－12 内神田東誠ビル７階　　ワイム貸会議室神田
	受講申込先	（公財）日本防炎協会　管理部 TEL　03-3246-1663 FAX　03-3271-1692 〒 103-0022 東京都中央区日本橋室町４－１－５　共同ビル９階
	申込期間	４月１日～６月 20 日（定員に達し次第締切ります）
大阪会場 （40 名）＊注	実施月日	10 月 17 日（木）･18 日（金）（２日間） 両日とも午前９時 30 分～午後４時 40 分
	講習会場	大阪府大阪市中央区大手前１－７－31 大阪マーチャンダイズ・マート（OMM）ビル１階グラン
	受講申込先	（公財）日本防炎協会　大阪事務所 TEL　06-6947-8844 FAX　06-6947-8846 〒 540-0011 大阪府大阪市中央区農人橋２－１－30 谷町八木ビル１階
	申込期間	７月１日～ 10 月３日（定員に達し次第締切ります）

2　防炎加工専門技術者再講習

区　　分	再　講　習	
目　　的	防炎加工専門技術者講習修了証又は資格証を有する方を対象に防炎に関する知識及び技能の更新を図るため５年以内ごとに受講する講習を行います。	
受　講　料	9,000 円＋ 900 円（消費税）＝ 9,900 円 天災等のため受講できない場合を除き、本人の都合で欠席する場合は前日迄にご連絡下さい。それ以外の場合は返金いたしませんので、予めご了承下さい。	
札幌会場 （40 名）＊注	実施月日	６月 14 日（金）午前 10 時～午後４時 30 分
	講習会場	北海道札幌市中央区北４条西７－１－４ 北農健保会館　３階　「芭蕉」
	受講申込先	（公財）日本防炎協会　北海道事務所 TEL　011-222-3928 FAX　011-232-2545 〒 060-0031 北海道札幌市中央区北１条東１－４－１ サン経成ビル５階
	申込期間	４月１日～６月７日（定員に達し次第締切ります）
大阪会場 （70 名）＊注	実施月日	７月 12 日（金）午前 10 時～午後４時 30 分
	講習会場	大阪府大阪市中央区大手前１－７－31 大阪マーチャンダイズ・マート（OMM）ビル２階
	受講申込先	（公財）日本防炎協会　大阪事務所 TEL　06-6947-8844 FAX　06-6947-8846 〒 540-0011 大阪府大阪市中央区農人橋２－１－30 谷町八木ビル１階
	申込期間	４月１日～７月５日（定員に達し次第締切ります）
仙台会場 （40 名）＊注	実施月日	９月６日（金）午前 10 時～午後４時 30 分
	講習会場	宮城県仙台市青葉区本町２－16－12 仙台商工会議所　７階大会議室
	受講申込先	（公財）日本防炎協会　管理部 TEL　03-3246-1663 FAX　03-3271-1692 〒 103-0022 東京都中央区日本橋室町４－１－５　共同ビル９階
	申込期間	４月１日～８月 29 日（定員に達し次第締切ります）

東 京 会 場 （80 名）＊注	実施月日	11 月 8 日（金）午前 10 時～午後 4 時 30 分
	講習会場	東京都千代田区内神田 3 － 24 － 5 エッサム神田ホール 2 号館　4 階
	受講申込先	（公財）日本防災協会　管理部 TEL　03-3246-1663 FAX　03-3271-1692 〒 103-0022 東京都中央区日本橋室町 4 － 1 － 5　共同ビル 9 階
	申込期間	4 月 1 日～ 10 月 31 日（定員に達し次第締切ります）

＊注: (　) は定員

令和６年度事業計画書・収支予算書

総務部

Ⅰ　基本的運営方針

火災の延焼・拡大の防止に大きな効果があり、避難等にも有効な防炎品の総合的な品質管理及びその適正な普及等を図ることにより、火災による国民の生命・財産等の被害の抑制・減少に貢献し、もって社会公共の福祉の増進に寄与する。

このため、より効率的な防炎性能確認試験業務及び防炎ラベル交付業務を推進するとともに、防炎品関連事業者への指導等品質管理業務並びに防炎に関する技術開発業務及び普及・広報業務を推進する。

特に令和６年度においては、近年の諸物価の高騰に加え、印刷・物流コストの上昇により収支状況が更に厳しいものとなっている現状に鑑み、手数料収入の確保、経費の節減及び業務の効率化に努めるとともに、事務所の統廃合等組織体制の見直しを進め、収支バランスの確保を図る。

また、防炎品の品質管理について、引き続き見える形で向上させるとともに、各種試験、審査、ラベル交付等の業務の確実性・効率性の向上や申請の電子化を図る。

Ⅱ　事業

１　共通事項

(1)　防炎品の品質確保及び普及促進を図るため、部会活動等を中心とした防炎事業関係者との情報交流等の促進、事業所調査等必要な指導活動の強化及び消防機関との連携に努める。

(2)　品質管理本部を中心として、防炎品の品質管理の徹底を図る。

(3)　効率的に業務を推進するため、電子処理システム全般の見直しを進める。

(4)　事務局組織の合理化を図るため、近接する京都・大阪事務所の統廃合について具体的な検討を進める。

(5)　九州事務所の立退き移転作業を適切に進め、職場環境並びに業務態勢の整備に努める。

２　法人管理関係

(1)　防炎事業の発展と防炎品の品質確保等に寄与した者の顕彰を行い、防炎品に対する社会的信頼性の向上等に資する。

(2)　会員に対し協会の活動に関する情報の提供等を行うとともに、協会の目的達成に必要な範囲において業務上の便宜を講ずるなど、会員制度の適切な管理に努める。

(3)　会員、防炎事業関係者、消防関係者等相互間の交流及び情報交換等を図る。

3　普及・広報関係（公益目的事業・収益事業１）

⑴　防炎講座の開催等を通じ、防炎品に関する適切な理解を広める。

①　防炎講座の開催

②　大学と連携した衣料管理実習の開催

③　国際福祉機器展、住宅防火防災推進シンポジウム等への参加

⑵　消防関係機関等との協力により、防炎品の普及を図る。

①　消防関係機関等が行う住民向け啓発活動で使用する広報資材・防炎品等の作成及び提供

②　出展を要請する消防機関等主催のイベントへの参加

③　予防広報委員会（東京消防庁・政令市／消防予防部長）の開催及び消防関係各種会議への参加

④　（一社）全国消防機器協会の社会貢献事業における防炎品の寄贈

⑶　広報媒体を通じ防炎品の一般消費者等への周知を図る。

①　広報誌「防炎ニュース」を通じた防炎品奏効事例等の継続的な紹介

②　ホームページの見直しを進めるとともに、ホームページにおける防炎品取扱い店舗情報の提供や各種情報の発信を継続

③　動画投稿サイトYouTube内の「防炎チャンネル」を通じた動画配信

④　CATV放送を活用した情報発信

⑤　消防関係専門紙（誌）等への記事掲載などによる情報発信

4　技術・試験関係（公益目的事業・収益事業１）

＊特に表示していないものは、「公益目的事業」及び「収益事業１」である。

⑴　試験・登録・認定業務の確実性・効率性の向上と顧客サービスの充実を図る。

①　防炎製品に関する質疑応答のまとめ及びホームページ「良くある質問とその答え」の更新（収益１）

②　防炎製品の申請業務に係るホームページの活用方策の検討（収益１）

⑵　防炎品を取り巻く環境変化に応じ、試験実施体制の強化を図る。

①　東京試験室及び大阪試験室間の業務平準化の推進及び試験業務処理の一層の迅速化のための体制強化

②　適正な作業環境を維持するための試験設備の定期的な更新及び労働安全面からの作業環境管理の推進

⑶　防炎品の開発及び防炎性能基準、防炎性能試験方法等に関する調査･検討を行う。

①　パーティション一体型布張家具及び工事用防音パネルの防炎製品認定の開始

②　大学や他試験機関等との共同研究により、より確実な試験方法（洗濯機械力等）の検討

③　新たな製品情報に基づく防炎品の調査研究

⑷　国内外の防炎規制・規格等の情報収集、分析及び情報の提供に努める。

①　防炎薬剤等の規制動向に関する国内外の情報収集及び情報提供

②　防炎品に関する海外の法規制等の情報提供

③　ISO（国際標準化機構）に関連する審議会等への参画及び情報収集

5　品質管理関係（公益目的事業・収益事業１・収益事業２）

＊特に表示していないものは、「公益目的事業」及び「収益事業１」である。

(1)　防炎性能確認審査等の申請について、申請相談への適切な対応、手続きの簡素化及び迅速な審査を実施する。

(2)　防炎事業者への防炎品に係る品質管理指導の強化により、品質の向上と信頼性を確保する。

①　防炎品に係る抜取・試買試験の実施

②　防炎品に係る事業者への定期・随時調査・指導の強化

③　重大不適合・不適合多発事業者に対する改善指導及び登録後数年経過した事業者への品質管理指導の充実

④　防炎カーテンのトレーサビリティー確保のための補助ラベルを継続支給（公益）

⑤　裁断・施工・縫製業者に対する防炎ラベルの表示・管理についての講習会の継続実施（公益）

(3)　防炎品ラベル交付業務の更なる効率化・安定化を図る。

(4)　防炎事業者における防炎性能試験等の技術･技能及び業務知識の向上を支援する。

①　防炎事業者を対象とした防炎性能試験等実地講習会の開催

②　防炎品に係る業務・技術講習会の協力・支援

(5)　防炎加工専門技術者育成のための防炎加工専門技術者講習会、再講習を開催する。（収益２）

〈令和６年度収支予算書（正味財産増減書）〉

令和6年 4月1日～令和7年 3月31日　　（単位：千円）

	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合計
Ⅰ 一般正味財産増減の部				
1　経常増減の部				
①　基本財産運用益	1,519		621	2,140
②　受　取　会　費	19,010		19,010	38,020
③　事　業　収　益	556,715	219,500		776,215
④　雑　収　益	414	606		1,020
(1)　経　常　収　益　計	577,658	220,106	19,631	817,395
①　事　業　費	586,825	204,765		791,590
②　管　理　費			24,350	24,350
(2)　経　常　費　用　計	586,825	204,765	24,350	815,940
当期経常増減額	△ 9,167	15,341	△ 4,719	1,455
2　経常外増減の部				
(1)　経　常　外　収　益　計	0	0	0	0
(2)　経　常　外　費　用	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替額	4,522	△ 9,241	4,719	0
当期一般正味財産増減額	△ 4,645	6,100	0	1,455
一般正味財産期首残高	546,432	132,061	214,005	892,498
一般正味財産期末残高	541,787	138,161	214,005	893,953
正味財産期末残高	541,787	138,161	214,005	893,953

防炎製品「パーティション一体型布張家具」及び「工事用防音パネル」の認定開始について

技術部

標題の件につきまして、令和５年９月27日の「防炎製品認定委員会」の審議を経て、令和６年４月１日より認定を開始しました。

事業者の皆様には、「パーティション一体型布張家具」及び「工事用防音パネル」についてご理解いただき、試験申請並びに事業運営のご検討をいただきますようお願い申し上げます。

1　パーティション一体型布張家具

(1)　認定開始の経緯

近年は働く環境が大きく変化しており、コロナ禍の影響もあって、テレワークの増加、さらにはオフィスの机についても従来の島型に配置する方式から、フリーアドレスやコワーキングスペースの採用が増加しています。そのような状況でオフィス家具も働く環境に対応した新しい製品が開発されており、写真１のような椅子とパーティションが一体化した「パーティション一体型布張家具」がオフィス内でも多く見られるようになっています。

【写真１】㈱ライオン事務器
2024年版総合カタログp82より

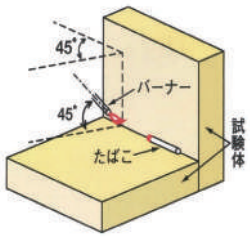
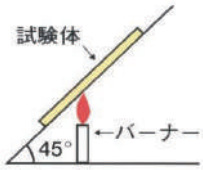
そこで、布張家具等部会よりパーティション一体型布張家具について防炎製品認定の依頼があり、ワーキンググループにて協議を重ねることになりました。

(2)　認定要件と防炎性能試験

協議の結果、このパーティション一体型布張家具は椅子（布張家具）とパーティションは切り離して使用することができないことから、認定要件として以下を設定するに至りました。

①布張家具部とパーティション部の防炎性能試験をそれぞれ実施し、適合すること。（但し、布張家具部に関して既に防炎製品認定されている物を使用する場合、前年度又は本年度に「品質管理のための防炎性能試験結果」を協会に提出済であれば、布張家具部の試験は不要とする。）
②パーティション部の毒性審査基準についても布張家具と同等の「２群（又は１群）」の物を使用する。

防炎性能試験は現行の布張家具等（クレビスバーナー法及びクレビスたばこ法）及びローパーティションパネル（45°メッケルバーナー法）のものを適用します。（表１）

	布張家具部	パーティション部
試験法（通称）	①クレビスたばこ法 ②クレビスバーナー法（加熱時間 30 秒）	45° メッケルバーナー法 加熱時間２分
試験体	30 × 30 ×（7.5 ± 1）cm ～　座部及び背部の全ての種類の組合せを３体ずつ （布張家具等完成品側地） 30 × 30 × 7.5cm の標準ウレタンフォームを側地で覆った３組（６体）の試験体	29 × 19cm （天地方向）　～３体
燃焼方法	①クレビスたばこ法…たばこ ②クレビスバーナー法…エアーミックスバーナー 炎の長さ：24mm 加熱時間：30 秒 	メッケルバーナー 炎の長さ：65mm 加熱時間：２分 
評価基準	①クレビスたばこ法…１時間以内に発炎及び進行するくすぶりが認められないこと ②クレビスバーナー法 残 炎 時 間：120 秒以下、 残じん時間：120 秒以下 ①②とも、試験体内部に発炎及び進行するくすぶりが認められないこと	残 炎 時 間：10 秒以下 残じん時間：30 秒以下 炭 化 面 積：70cm^{2}以下 加熱終了より 15 分後に発炎及びくすぶりが認められないこと

【表1】パーティション一体型布張家具の防炎性能試験
布張家具部は側地（布張家具等完成品側地を含む）が防炎性能試験に適合であることが前提

２　工事用防音パネル

⑴　経緯

当協会は約30年前から、工事用防音パネルの防炎性能試験（依頼試験）を実施してきましたが、この度、正式に（一社）仮設工業会より工事用防音パネルを防炎製品として認定の要請が有りましたので、検討を行いました。

⑵　工事用防音パネルとは

・主として建築工事現場にて、鋼管足場などの仮設構造物の外構面に設け、工事騒音の外部への伝播防止及びボルト等の外部への飛来落下防止のため用いられます。

・解体工事の足場養生における騒音対策の一つ。

・工事用防音パネルの構成は、外枠はアルミフレーム、パネル部は主に以下の２種類が使用されています。

ⅰ）表面・裏面：アルミニウム板
　中間層：ポリエチレン製樹脂板

ⅱ）ポリカーボネート製樹脂板

ⅰ）では工事現場が暗くなるため、光を取り入れる場合はⅱ）が用いられます。

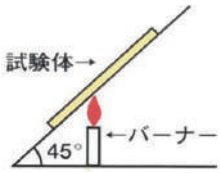
写真２に工事用防音パネルの施工例を示します。

【写真２】　工事用防音パネル施工例
キョーワ㈱　ホームページより

(3)　認定要件

①防炎性能試験

防炎物品の工事用シートと同様な目的で使用されること、及び過去30年の試験実績から、工事用シートの試験方法に準拠することとし、詳細を表２に示します。

試験法（通称）	45°メッケルバーナー法
試験体	（縦 29cm、横 19cm、厚さ原寸）３体 （縦 19cm、横 29cm、厚さ原寸）２体
前処理	温水浸漬 50 ±２℃ × 30 分
燃焼試験方法	45°メッケルバーナー （炎の高さ 65mm） 加熱時間２分 （着炎する物は着炎後６秒） 
評価基準	残 炎 時 間：５秒以下 残じん時間：20 秒以下 炭 化 面 積：40cm²以下

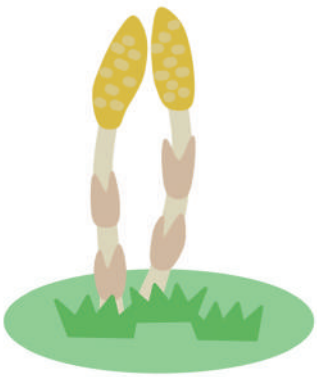
【表２】工事用防音パネルの防炎性能試験基準

②毒性審査基準

工事用防音パネルの毒性審査基準は５群とします。

なお、当協会は防炎性能のみ認定を行います。工事用防音パネルとしての他の性能（曲げ強度、落下試験、防音性能）については、（一社）仮設工業会へご相談願います。

＊以上、ご不明な点は当協会技術部（tel：03-3246-0624）までご相談下さい。



令和６年度
住宅防火対策推進協議会主催のシンポジウム等のご案内

総務部　広報室

令和６年度、住宅防火対策推進協議会による展示会への出展・シンポジウム・CATV（ケーブルテレビ）広報等に日本防炎協会も参加します。

この各行事は、住宅防火対策推進協議会の各団体と共に住宅防火対策の重要性を周知し、防炎品、住宅用火災警報器、消火器、住宅用消火設備等の普及を図り、住宅火災の低減を目的としています。

１　第51回国際福祉機器展H.C.R.2024への出展

開催日時　令和６年10月２日（水）～４日（金）
開催場所　東京ビッグサイト　東展示ホール

２　住宅防火防災推進シンポジウム

（1）開　催　地　宮崎県宮崎市（協力：宮崎市消防局）
　　開　催　日　令和６年12月21日（土）
　　開催場所　JA・AZMホール
（2）開　催　地　山口県周南市（協力：周南市消防本部）
　　開　催　日　令和７年２月１日（土）
　　開催場所　周南市文化会館

３　CATV広報

（1）開催地消防本部　新潟県佐渡市消防本部（2024消防ふれあい広場）
　　収録開催日　令和６年10月13日（日）
　　開催場所　佐渡市消防本部・佐渡市防災センター
（2）開催地消防本部　愛知県愛西市消防本部（あいさんさん祭り「消防広場」）
　　収録開催日　令和６年10月27日（日）
　　開催場所　愛西市役所東側駐車場
（3）開催地消防本部　愛知県西尾市消防本部（2024きらまつり）
　　収録開催日　令和６年11月10日（日）
　　開催場所　横須賀公園

防炎ラベル交付枚数の推移

管理部

2019年度上期から2023年度下期における主な防炎ラベルの交付枚数の推移は以下のとおりです。

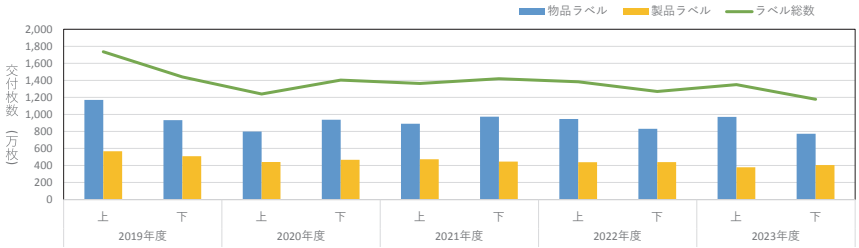
今年度（４月－３月）の防炎ラベル交付枚数は、昨年度に比べ５％減で推移しました。カーテンの交付数は昨年度の横這いですが、工事用シートが５％、テント・シート・幕類の10％落ち込みました。

防炎ラベル交付枚数推移　（2019年度上期～2023年度下期）　（万枚）

	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
ラベル総数	1,737	1,441	1,240	1,404	1,364	1,420	1,384	1,270	1,350	1,178
物品ラベル	1,170	932	799	937	891	974	946	831	971	773
製品ラベル	567	509	441	467	473	446	438	439	379	405

上:4月~9月　下:10月~3月

防炎ラベル交付枚数推移

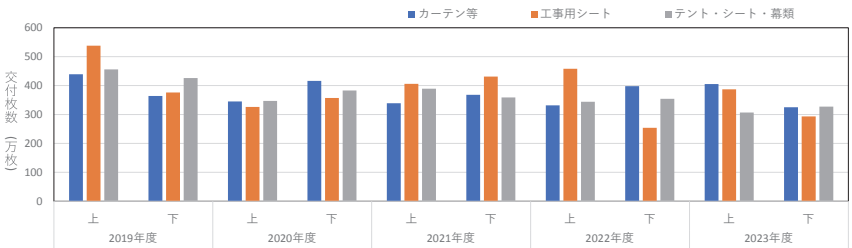


主用途向け防炎ラベル交付枚数推移　（2019年度上期～2023年度下期）　（万枚）

	2019年度		2020年度		2021年度		2022年度		2023年度	
	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
カーテン等	439	364	345	416	339	368	331	398	405	325
工事用シート	538	376	326	357	406	431	458	254	387	293
テント･シート･幕類	456	426	347	383	389	359	344	354	307	327

上:4月~9月　下:10月~3月

主用途向け防炎ラベル交付枚数推移



2024年度 全国統一防火標語は
「守りたい 未来があるから 火の用心」
～防火ポスターのモデルには、女優の山﨑玲奈さんを起用～

一般社団法人　日本損害保険協会

一般社団法人日本損害保険協会（会長：新納啓介）では、1949年度から、防火意識の高揚を目的として、防火ポスターを作成しています。

2024年度の防火ポスターは、女優の山﨑玲奈さんをモデルに起用し、「守りたい　未来があるから　火の用心」という2024年度全国統一防火標語により、未来のために、日頃から火事を起こさないように用心することの重要性を山﨑さんのさわやかな笑顔で国民に訴えています。

この防火ポスター（20万枚）は、今後、総務省消防庁の協力のもと、全国の消防署や役所などの公共機関等に、2024年4月から翌年3月まで掲出されます。

当協会では、社会の安心・安全に貢献するため、今後も防火・防災に係る啓発活動に取り組んでまいります。

山﨑 玲奈さんからのコメント

このたび、憧れの諸先輩方が務めている防火ポスターに出演できることになり、嬉しさと同時に身の引き締まる思いでもあります。

「火」は私たちの生活にとって欠かせないものです。自分の身を守るためにも安全に使っていくことが必要だと思います。豊かな未来を作っていくためにも、身近な「火」を上手に扱っていきましょう！

＜ 山﨑 玲奈さんのプロフィール ＞

- 2007年1月28日生まれ（17歳）、愛媛県出身。
- 小学4年生から愛媛県松山市などの市民ミュージカルに参加。2018年に受けた「アニー」オーディションで主役の座をつかむ。
- 2020年12月第44回ホリプロタレントスカウトキャラバンにて、グランプリを獲得。
- 主な出演にミュージカル『アニー』（アニー役）、ミュージカル『フィスト・オブ・ノーススター～北斗の拳』（リン役）、ミュージカル『聲の形』西宮硝子役、映画「劇場版 おいしい給食 卒業」（学級委員長・皆川佐和子役）、音楽プロジェクト「ウタヒメドリーム」（夢咲いぶき役）など。
- ブロードウェイミュージカル「ピーター・パン」の11代目ピーター・パンとして、2023年夏に引き続き、2024年夏も出演予定。

（ご参考）過去5年の全国統一防火標語

年度	全国統一防火標語	防火ポスターモデル
2023年度	火を消して　不安を消して　つなぐ未来	野口　絵子　さん
2022年度	お出かけは　マスク戸締り　火の用心	天翔　愛　さん
2021年度	おうち時間　家族で点検　火の始末	福本　莉子　さん
2020年度	その火事を　防ぐあなたに　金メダル	白石　聖　さん
2019年度	ひとつずつ　いいね！で確認　火の用心	秋元　真夏　さん

1　協会人事異動

退　職

令和６年３月31日

酒井　美貴子（試験室長）
浦野　雅充（技術部次長）
松井　晋平（技術部主査兼総務部）
伊藤　友子（管理部主査）
矢幡　勝　（東京試験室技術部主査）
小林　浩美（東京試験室技術部主査）
松本　典子（大阪試験室）

採　用

令和６年４月１日

技術部次長　　横田　真澄
技術部主査兼総務部主査
　　五十嵐　大基
技術部主事　　黒川　美優
技術部審議役　酒井　美貴子

人事異動

令和６年４月１日

末岐　和史
新：試験室長
旧：技術部調査役兼試験室長代理

2　新年賀詞交歓会

日時　令和６年１月17日（水）
会場　明治記念館

3　理事会・評議員会

第47回理事会

日時　令和６年３月13日（水）
会場　エッサム神田ホール１号館
議題　（１）令和６年度事業計画書（案）について
（２）令和６年度収支予算書（案）について
（３）第26回評議員会（臨時）の開催について（案）

第26回評議員会（ZOOM併用）

日時　令和６年３月26日（火）
会場　エッサム神田ホール１号館
議題　評議員会議長の互選について

4　各部会開催

（１）合板部会

日時　令和６年１月17日（水）
会場　協会会議室

（２）防炎薬剤部会

日時　令和６年１月25日（木）
会場　協会会議室

（３）寝具等部会

日時　令和６年２月27日（火）
会場　大江ビル（大阪市）

（４）じゅうたん部会

日時　令和６年２月27日（火）
会場　大江ビル（大阪市）

（５）広告幕部会

日時　令和６年３月11日（月）
会場　エッサム神田ホール２号館

（６）布張家具部会ワーキンググループ

日時　令和６年３月15日（金）
会場　協会会議室

5　広報活動関係

（1）ケーブルテレビ等による住宅防火広報事業

日時　令和６年２月11日（日）
会場等　鹿沼市消防本部

（2）住宅防火防災推進シンポジウム

日時　令和６年１月28日（日）
会場等　志摩市消防本部

（3）防炎講座

日時　令和６年１月12日（金）
会場等　東京消防庁消防学校

日時　令和６年１月19日（金）
会場等　青森県消防学校

日時　令和６年１月25日（木）
会場等　王子防火女性の会

日時　令和６年１月26日（金）
会場等　山形県消防学校

日時　令和６年２月１日（木）
会場等　箱根町防火管理者等協議会

日時　令和６年２月３日（土）
会場等　城陽市消防本部

日時　令和６年２月７日（水）
会場等　愛知県消防学校

日時　令和６年２月９日（金）
会場等　岩手県消防協会胆江地区支部

日時　令和６年２月15日（木）
会場等　福井県消防学校

日時　令和６年２月16日（金）
会場等　音更町防火安全協会

日時　令和６年２月17日（土）
会場等　福井県インテリア協会

日時　令和６年２月20日（火）
会場等　総務省消防庁消防大学校

日時　令和６年２月22日（木）
会場等　落合第一地区民生・児童委員協議会

日時　令和６年２月22日（木）
会場等　埼玉県消防学校

日時　令和６年３月１日（金）
会場等　東京消防庁消防学校

日時　令和６年３月２日（土）
会場等　笠岡地区消防組合

日時　令和６年３月３日（日）
会場等　福井県消防学校

日時　令和６年３月７日（木）
会場等　群馬県消防学校

（4）その他展示会等

東京消防出初式広報活動

日時　令和６年１月６日（土）
会場　東京ビッグサイト

6　防炎性能試験等実地講習会

日時　令和６年１月30日（火）
会場　東京試験室

日時　令和６年２月27日（火）
会場　大阪試験室

7　衣料管理士実習（３女子大学合同）

日時　令和６年２月26日（月）～28日（水）
会場　協会会議室・東京試験室

8　防炎ニュース編集委員会（ZOOM併用）

日時　令和６年２月15日（木）
会場　協会会議室

9　月例会議

日時　令和６年１月16日（火）
会場　協会会議室

日時　令和６年２月13日（火）
会場　協会会議室

日時　令和６年３月12日（火）
会場　協会会議室

防炎物品試験番号・防炎製品製品番号取得件数

令和６年１月１日～令和６年３月31日

区分	記号	品目	件数
防炎物品等	A	カーテン	181
	B	布製ブラインド	28
	C	工事用シート	28
	D	合板	1
	E	じゅうたん等	194
	F	防炎薬剤	0
		合計	432

区分	記号	品目	件数
防炎製品	A	寝具等側地	3
	AA	寝具等完成品側地	0
	CC	ふとん類	0
	DD	毛布類	5
	E	木製等ブラインド	0
	F	テント類、シート類、幕類	77
	G	非常持出袋	1
	HH	防災頭巾等	0
	HA	防災頭巾等側地	0
	HB	防災頭巾等詰物類	0
	J	災害用間仕切り等	0
	K	衣服類	0
	L	布張家具等	0
	P	布張家具等側地	0
	PA	布張家具等完成品側地	2
	R	自動車・オートバイ等のボディカバー	0
	S	ローバーティションパネル	6
	T	襖紙・障子紙等	0
	U	展示用パネル	3
	V	祭壇	0
	W	祭壇用白布	0
	X	マット類	0
	Y	防護用ネット	2
	Z	防火服	0
	ZA	防火服表地	0
	ZB	防火服用高視認性素材	0
	ZK	活動服	0
	ZS	作業服	0
		合計	99

業種別防炎登録表示者数

（令和６年３月31日現在）

業種	防炎登録表示者数
製造業	622
防炎処理業	866
輸入販売業	1,004
裁断・施工・縫製業	33,275
計	35,767

防炎ニュース No.236
令和６年４月25日発行（年４回発行）
発行人　安藤　俊雄
編集人　仲田　忠司

発行元　公益財団法人　日本防炎協会
東京都中央区日本橋室町4-1-5　共同ビル
TEL 03（3246）1661　FAX 03（3271）1692
印刷所　株式会社アイネット

消防機関の皆さまへ

防炎物品・防炎製品の普及・奏効例をお知らせください

防炎物品（カーテン、暗幕、どん帳、布製ブラインド、じゅうたん等、展示用合板、舞台において使用する幕及び大道具用の合板、工事用シート）、防炎製品（寝具類、衣服類、テント類、シート類、幕類、自動車・バイク等のボディカバー、布張家具等、防護用ネット他）の普及活動事例及び火災をくい止めた実例を「防炎ニュース」誌上でご紹介したいので、ぜひご一報ください。

（公財）日本防炎協会 総務部 広報室

〒103-0022 東京都中央区日本橋室町 4-1-5 共同ビル

TEL 03-3246-1661 FAX 03-3271-1692

2024.4 NO.236

防炎ニュース

Fire Retardant News

公益財団法人 日本防炎協会
JAPAN FIRE RETARDANT ASSOCIATION

本　部	〒103-0022　東京都中央区日本橋室町 4-1-5 共同ビル 9 階 TEL 03-3246-1661　FAX 03-3271-1692
北海道事務所	〒060-0031　北海道札幌市中央区北 1 条東 1 丁目 4-1 サン経成ビル TEL 011（222）3928　FAX 011（232）2545
名古屋事務所	〒460-0015　愛知県名古屋市中区大井町 3-15 日重ビル TEL 052（321）4344　FAX 052（321）4343
京都事務所	〒600-8177　京都府京都市下京区烏丸通五条下ル大坂町 391 第 10 長谷ビル TEL 075（353）4675　FAX 075（353）4676
大阪事務所	〒540-0011　大阪府大阪市中央区農人橋 2-1-30 谷町八木ビル TEL 06（6947）8844　FAX 06（6947）8846
九州事務所	〒810-0802　福岡県福岡市博多区中洲中島町 3-10 福岡県消防会館 TEL 092（271）4525　FAX 092（284）6350
東京試験室	〒103-0022　東京都中央区日本橋室町 4-1-5 共同ビル 1 階 TEL 03（3510）6214　FAX 03（3510）6254
大阪試験室	〒540-0011　大阪府大阪市中央区農人橋 2-1-30 谷町八木ビル TEL 06（6947）8845　FAX 06（6947）8846

本部直通

■総務部　TEL 03-3246-1661
（総務、経理、広報業務）

■管理部　TEL 03-3246-1663
（防炎表示者登録、防炎品ラベル交付、防炎品の品質管理、防炎加工専門技術者講習会業務）

■技術部　TEL 03-3246-0624
（防炎性能試験受付、試験番号登録・再登録、防炎製品の認定、防炎関係の各種相談）

協会ホームページ　https://www.jfra.or.jp